



The 54th Annual Meeting of the Japanese Association for Acute Medicine

第54回日本救急医学会総会・学術集会

ランチョンセミナー13

Luncheon Seminar 13

日時

2026年 10月28日(水) 12:40～13:40

会場

第1会場 出島メッセ長崎
2F コンベンションホール1・2
〒850-0058 長崎県長崎市尾上町4-1

AIが実現する一人も取りこぼさない 希少血液疾患診療： DIC・TTP・aHUSの早期診断への挑戦

司会

仲村 佳彦 先生

福岡大学医学部救命救急医学講座 主任教授／
福岡大学病院 救命救急センター・ECMOセンター センター長

DICとTMAを見逃さない

—診断ギャップを埋めるリアルワールドデータとAI—

演者

和田 剛志 先生

北海道大学大学院 医学研究院
侵襲制御医学分野 救急医学教室 教授

AIは救急医療にどのような変化をもたらすのか

演者

木下 喬弘

株式会社MeDiCU
代表取締役

aHUS: 補体の異常活性化により発症する指定難病
非典型溶血性尿毒症症候群

TMA: 血小板減少と溶血性貧血に、腎障害や脳神経障害などの
臓器障害を合併する疾患
血栓性微小血管障害症

本セミナーは整理券制となります

配布場所	出島メッセ長崎 1F 総合受付付近
配布時間	10月28日(水) 7:15～12:10*

※定員に達し次第、配布を終了いたします。
※ヒルトン長崎での整理券配布はございません。
※整理券はセミナー開始と同時に無効となります。

共催: 第54回日本救急医学会総会・学術集会
フクダ電子株式会社・株式会社MeDiCU

AIが実現する一人も取りこぼさない 希少血液疾患診療： DIC・TTP・aHUSの早期診断への挑戦

DICとTMAを見逃さない —診断ギャップを埋めるリアルワールドデータとAI—

和田 剛志

北海道大学大学院 医学研究院 侵襲制御医学分野 救急医学教室 教授

重症患者では血小板減少をしばしば認め、その背景にはDICやTTP・aHUSを含むTMAが存在する。DICでは、抗凝固療法は適切に選択された重症例で有効性が期待される一方、重症化を待ってから治療するのでは遅い可能性があり、進展する症例を早期に予測する意義は大きい。一方、TMAには疾患特異的な治療が存在し、それ自体が救命につながるため、見逃しは許されない。こうした課題に対し、ICUのバイタルサイン、検査、治療情報を分単位で統合するMeDiCUのOneICUデータを用い、DICへの進展予測やTMAの診断ギャップが検討されてきた。さらに当院では、48時間以内の急変リスクを予測するMeDiCU-AIを重症管理システムMirrelに導入予定である。本講演では、これらの研究と臨床実装を通じ、AIがDIC・TMAの早期認識と適切な治療介入に果たす可能性を考察する。

AIは救急医療にどのような変化をもたらすのか

木下 喬弘

株式会社MeDiCU 代表取締役

近年のAI(人工知能)技術の発展は目覚ましく、救急医療領域においても臨床応用が盛んに議論されるようになってきた。米国では、大手電子カルテベンダーや医療機器メーカーがバイタルサインや血液検査結果を用いて「敗血症の発症予測」を行うAIの開発を進めており、FDAの承認を得て販売されている製品も存在する。刻一刻と状態が変わる重症患者の時系列データを活用し、時間とともにリスクスコアが更新される動的予測モデルを臨床応用することで、患者の病態悪化を早期に捉え、適切な介入によって予後を改善する効果が期待されている。

我々はこれまで、日本の20施設の救命救急センター・集中治療室と共同で、約25万症例から15億回分のバイタルサインを収集し、大規模ICUデータベース「OneICU」を構築してきた。1分おきのバイタルサインや血液検査結果、治療内容を活用できるOneICUデータベースの特徴を活かし、ICU患者におけるノルアドレナリンの血圧上昇効果の定量化や、βブロッカー貼付薬の脈拍低下効果の検証、さらにSOFA-2スコアの世界初の外的妥当性検証などの研究成果を報告してきた。これらの研究に加え、本年2月には、敗血症患者のDIC発症を予測する機械学習モデルを構築し、その精度を論文として報告した。こうした機械学習モデルは、世界的にも臨床応用が開始される段階にあり、これまでのエビデンスを紹介しながら、臨床意思決定に直結するAIの在り方について議論する。

aHUS: 補体の異常活性化により発症する指定難病
非典型溶血性尿毒症症候群

TMA: 血小板減少と溶血性貧血に、腎障害や脳神経障害などの臓器障害を合併する疾患
血栓性微小血管障害症

共催: 第54回日本救急医学会総会・学術集会
フクダ電子株式会社・株式会社MeDiCU